

がん終末期医療に携わる訪問看護師のストレスと関連要因に関する研究

石橋 亜矢

長崎国際大学人間社会学部 社会福祉学科

A study on psychological stress experienced by home-visit nurses involved in terminal cancer care and related factors

Aya Ishibashi

Faculty of Human and Social Studies, Social Work Department

【Abstract】 The present study aimed to examine the status of psychological stress experienced by home-visit nurses involved in terminal cancer care and its relevant factors. A questionnaire survey was conducted involving 307 home-visit nurses in Fukuoka, Nagasaki, and Saga Prefectures. Survey items were their basic attributes, characteristics of their work styles, and scores of the Nursing Job Stressor Scale (NJSS). Statistical software SPSS was used for analysis, and NJSS scores received by the nurses, their basic attributes, and the characteristics of their work styles were compared between the two groups using the t-test. The mean total stress score on the NJSS was 2.4 points, and the mean score for “qualitative burdens of work” on the sub-scale was the highest. Stress experienced by home-visit nurses was associated with their basic attributes and the characteristics of their work styles. Nurses who were in management positions, visited patients alone, worked an on-call shift, and had participated in training sessions were more stressed than nurses who were in non-management positions, visited with other nurses, were not on-call nurses, and had not undergone training, respectively. Psychological stress experienced by home-visit nurses was associated with tasks that require high-level abilities and skills, including end-of-life care and judgments/collaboration to adapt to emergency situations. It is necessary to improve work styles and training programs to alleviate stress.

【Key words】 Terminal phase of cancer, home-visit nurses, stress

【要旨】本研究の目的は、がん終末期医療に携わる訪問看護師のストレスの実態と関連要因を明らかにすることである。福岡県、長崎県、佐賀県内の訪問看護職 307 名を対象に質問紙調査を実施した。調査内容は、基本属性、就業特性、臨床看護職者の仕事ストレス測定尺度(NJSS)を使用した。NJSS のストレス総得点の平均値は 2.4 点で、下位尺度の平均値が最も高かったのは、「仕事の質的負担」であった。訪問看護師のストレスは、基本属性・就業特性に関連があり、スタッフより管理職、複数訪問より単独訪問、オンコールは無群より有群、研修受講は無群より有群のストレスが高かった。訪問看護師のストレスは、看取りや緊急時の臨機応変な判断や連携等に、高い能力が求められることに関係する。ストレス緩和における就労形態の改善や研修の整備を進めていく必要性が示唆された。

【キーワード】がん終末期、訪問看護師、ストレス

【目的】本研究は、がん終末期医療に携わる訪問看護師のストレスとその関連要因を明らかにすることを目的とする。本研究により、がん終末期医療に携わる訪問看護師のストレスの程度や関連要因を明らかにすることで、ストレスマネジメント方略を検討する際の重要な基礎資料となる。

【方法】福岡県、長崎県、佐賀県内の訪問看護職 307 名を対象に質問紙調査を実施した。福岡県、長崎県、佐賀県内の訪問看護ステーションに勤務する 102 施設のなかで、同意が得られた 299 名に対して無記名自記式質問紙調査による郵送調査を行った。

調査対象者を過去 1 年以内にがん終末期患者を 1 件以上担当していることを条件とした。調査期間は、2017 年 8 月 9 日～9 月 30 日であった（回収率 72.5%）。なお、調査票は郵送で回収した。

調査内容は、基本属性、就業特性、臨床看護職者の仕事ストレス測定尺度 (NJSS) を使用した。

分析には NJSS のストレスの信頼性について、尺度全体及び下位因子の Cronbach  $\alpha$  係数を算出して確認した。また、NJSS 平均値を算出し、基本属性と就業特性による 2 群間の比較に t 検定を用いた。

統計学的有意水準は 5%未満とした。なお、統計分析処理には SPSS Ver25. を使用した。

表 基本属性および就業特性と NJSS ストレス得点の比較

		n = 299						
		医師との人間関係と 看護職者としての自 律性			仕事の質的負担		仕事の量的負担	
		n	Mean $\pm$ SD	p	Mean $\pm$ SD	p	Mean $\pm$ SD	p
基本属性	職位	管理職	68	2.8 $\pm$ 0.9	.003	2.7 $\pm$ 0.9	.357	2.8 $\pm$ 0.8
		スタッフ	231	2.4 $\pm$ 1.0		2.9 $\pm$ 0.9		2.7 $\pm$ 0.9
就業特性	がん終末期 患者訪問形態	単独	132	2.4 $\pm$ 1.0	.097	2.9 $\pm$ 0.9	.271	2.8 $\pm$ 0.9
		複数	167	2.6 $\pm$ 1.0		2.8 $\pm$ 0.9		2.6 $\pm$ 0.9
	オンコール	有	205	2.6 $\pm$ 1.0	.010	2.8 $\pm$ 0.9	.700	2.8 $\pm$ 0.8
		無	94	2.3 $\pm$ 1.0		2.8 $\pm$ 0.9		2.5 $\pm$ 1.0
	がん看護の 研修受講	有	184	2.6 $\pm$ 0.9	.001	2.9 $\pm$ 0.9	.400	2.8 $\pm$ 0.8
		無	115	2.3 $\pm$ 1.1		2.8 $\pm$ 0.9		2.6 $\pm$ 0.9

t 検定 注1) 平均得点が高いほど、各々の因子名のストレスを強く認知していることを示す。  
注2)  $P < 0.01$   $P < 0.05$

【結果および考察】回答者の平均年齢は 47.0 ( $\pm 7.7$ ) 歳であった。NJSS のストレス総得点の平均値は 2.4 点で、下位尺度の平均値が最も高かったのは、「仕事の質的負担」であった。また、スタッフより管理職、複数訪問より単独訪問、オンコールは無群より有群、研修受講は無群より有群のストレス得点が高かった。

がん終末期医療に携わる訪問看護師のストレスは、限られた予後で関係性の構築を築くことや、在宅特有の異なる環境下における単独の判断に重ねて重症患者の慣れない治療法に対する注意力、多くの他職種との連携が要求されるため、仕事の質的負担を感じていることが推察される。さらに、オンコール待機による身体面や精神面の負担が、がん終末期医療に携わる訪問看護師特有のストレスを抱えていることが示唆された。